

1. 科目名 (単位数)	幼児教育学特論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5312
2. 授業担当教員	浅野 菜津子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義		
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>教育という営みは何かの原点に戻りながら授業を進める。幼児教育の思想・歴史を基本に幼児教育の構造理解を深め、戦後日本における幼児教育の実態を把握した上で、今後の幼児教育のあり方について探求する。</p> <p>まず、西洋幼児教育思想の流れを概括し、次いで、わが国の幼児教育史について学ぶ。さらに、わが国の幼児教育に強い影響を及ぼしている倉橋惣三、津守真の考え方についての理解を深めるとともに、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている基本理念、実践方法との関連の理解を図る。</p>		
8. 学習目標	<p>①子どもの在り様を社会の変化との関連で捉える。</p> <p>②幼児教育を学ぶものの基礎知識としての西欧及びわが国の幼児教育史の流れを理解する。</p> <p>③近年求められている、義務教育の基礎としての幼児教育のあり方について考察する。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14. 学習の展開および内容」の各テーマを参照のこと。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 倉橋惣三『育ての心(上)・(下)』フレーベル館、2008年 「幼稚園教育要領」(平成29年告示) 「保育所保育指針」(平成29年告示) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年告示)</p> <p>【参考文献】 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館、2008年 津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房、2000年 津守真『子どもの世界をどう見るか 行為とその意味』NHKブックス、2005年 津守真『保育の体験と思索 子どもの世界の探求』大日本図書、1999年 民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年 「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の思想・歴史を理解できているか。 2. 幼児の発達の特質と生活の在り方について理解しているか。 3. レポート作成において、文献の引用、用語の使用、論旨の展開が適切か。 <p>○評定の方法</p> <p>レポート内容(理解度、思考力) 60%</p> <p>最終レポート(独自の問題選択にみられる事実の認識の明確さと見解の表現の的確さ) 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	日頃から子どもの問題に関心を持ち、幼児の特性を理解し、幼児の立場から状況を捉える姿勢をもつこと、また、自分なりの見解をもつと共に、他者の意見や立場から学ぶ柔軟な態度を期待したい。		
13. オフィスアワー	後日通知		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】		
1 ~ 2. テーマ	社会と子ども		
【学習の目標】	社会における子どもの位置づけ、子ども観の歴史の変容、近代幼児教育思想の成立の背景を理解する。		
【学習の内容】	(1) 中世から近代への生活形態の推移と子どもと大人の関係の変化 (2) 現代社会の様々な特徴(消費的環境、効率優先、ICTにより制御された環境、切り刻まれた時間的環境、等)が、その環境の中で育つ子どもに及ぼす影響		
【キーワード】	急かされる子ども、現実空間と仮想空間、子どもの経験世界の分裂、「子どもを授かる」と「子どもを作る」		
【学習の課題】	(1) わが国の子ども観の変化について確認し、現在の「子どもという存在」の捉え方について考える。 (2) 子どもの問題を社会の変化との関連で認識する。		
【参考文献】	高橋勝『文化変容の中の子ども』東信堂、2002年 本田和子『子ども100年のエッセイ』フレーベル館、2000年		
【学習する上での留意点】	身近な子どもの問題をグローバルな視点で捉えようとする態度をもつ。		
3 ~ 4. テーマ	西欧の幼児教育思想史(その1)を理解する。		
【学習の目標】	現代の幼児教育観の基礎となるルソー、フレールベルの思想を理解する。		
【学習の内容】	(1) ルソーの著書「エミール」から「子どもの発見」の意味することを理解する。 (2) フレールベルの著書「人間の教育」からフレールベルの思想の特質と幼稚園設立へのつながりを理解する。 (3) 今日われわれがもっている保育への一般的态度との関連について考察する。		
【キーワード】	ルソー、フレールベル、キンダーガルテン、「遊び」についての考え方		
【学習の課題】	(1) ルソーはなぜ「子どもの発見者」と言われるのか。 (2) フレールベルはなぜ幼稚園を設立したのか。		
【参考文献】	小笠原道雄『フレールベルとその時代』玉川大学出版部、1993年 矢野智司『子どもという思想』玉川大学出版部、1995年 太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新天地 上巻』萌文書林、2021年		
【学習する上での留意点】	現代日本の幼児教育は諸外国の影響のもとに成立していることを前提に、歴史的背景のつながりにおいて理解すること。		
5. テーマ	西欧の幼児教育思想史(その2)		

	<p>【学習の目標】 現代に強い影響を及ぼしている主な幼児教育思想を理解する。</p> <p>【学習の内容】 (1)モンテッソーリの思想と教育方法・教具を理解する。 (2)デューイの思想と新教育運動について理解する。</p> <p>【キーワード】 モンテッソーリ、デューイ、「子どもの家」、新教育運動、「為すことによって学ぶ」</p> <p>【学習の課題】 (1)モンテッソーリの教育観と方法は、今日の子どもにとってどのような長所と短所が考えられるか。 (2)デューイの功績のうち、現在社会において意味のあることはどのようなことか。</p> <p>【参考文献】 矢野智司『子どもという思想』玉川大学出版部、1995年 太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新天地 上巻』萌文書林、2021年</p>
6. テーマ	わが国の現代の幼児教育の基礎(その1:保育の黎明期)
	<p>【学習の目標】 我が国の幼稚園、保育所の成立過程から、現在の幼稚園、保育所問題のもつ根本的課題を考える。</p> <p>【学習の内容】 (1)明治初期の教育政策と幼稚園の成立 (2)幼稚園の保育内容、普及状況 (3)保育所の成立過程と普及状況</p> <p>【キーワード】 東京女子師範学校付属幼稚園、倉橋惣三、生活、誘導保育</p> <p>【学習の課題】 (1)幼稚園と保育所の性格の違いを歴史的に理解する。 (2)わが国の子育ての伝統と初期の幼稚園、保育所の社会的役割及び保育内容との関連を考察する。</p> <p>【参考文献】 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館、2007年 倉橋惣三『育ての心(上)・(下)』フレーベル館、2007年 汐見稔幸ほか『日本の保育の歴史』萌文書林、2017年 穴戸健夫『日本における保育カリキュラム』新読書社、2017年 太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新天地 上巻』萌文書林、2021年</p>
7. テーマ	わが国の現代の幼児教育の基礎(その2:保育法の展開)
	<p>【学習の目標】 倉橋惣三の保育論を理解し、現在の保育実践への影響と課題を考察する。</p> <p>【学習の内容】 (1)教育の目的と対象 (2)生活へ教育を (3)幼児の生活の自己充実</p> <p>【キーワード】 倉橋惣三、児童中心主義、生活、誘導保育</p> <p>【学習の課題】 (1)子ども中心の保育の意味を考える。 (2)倉橋理論における保育者の役割を理解する。 (3)現在の保育現場の実際と倉橋理論の保育のとの隔たりについて考察する。</p> <p>【参考文献】 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館、2007年 倉橋惣三『育ての心(上)・(下)』フレーベル館、2007年</p>
8~10.テーマ	わが国の現代の幼児教育の思想(その1:子ども中心の保育)
	<p>【学習の目標】 倉橋の保育理論から現代の保育論、特に津守真の保育論へのつながりについて学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 (1)子どもの諸能力の基礎とされている「存在感」「能動性」「相互性」「自我」が生まれる過程を理解する。 (2)保育の展開を支える子どもと保育者のつながりについて考察する。</p> <p>【キーワード】 子どもが生きている世界、存在感、能動性、相互性、自我、子どもの自己実現</p> <p>【学習の課題】 (1)「子どもの世界を生きる」ことが保育者の要件であるわけを理解する。 (2)「いまを充実させること」と「発達を促すこと」の関連について考察する。 (3)一人ひとりの子どもの活動テーマを理解することの重要性について考察する。</p> <p>【参考文献】 津守真『子どもの世界をどう見るか 行為とその意味』NHKブックス、2005年 津守真『保育の体験と思索 子どもの世界の探求』大日本図書、1999年</p> <p>【学習する上での留意点】 具体的な保育場面の事例について生き生きと感じる取り、保育行為の意味をくみ取るようにする。</p>
11. テーマ	わが国の現代の幼児教育の思想(その2:子どもの内面理解)
	<p>【学習の目標】 津守真の保育論における保育の基本理念を理解し、現代の一般的教育観と比較する。</p> <p>【学習の内容】 (1)保育の中の「発達」についての考え方 (2)保育の状況性 (3)遊びの重要性 (4)保育者の成長</p> <p>【キーワード】 保育の知、保育の身体的行為</p> <p>【学習の課題】 (1)子どもの「発達」について、様々な視点から考える。 (2)子どもの遊びの内側にあるものや行為の意味について解釈する。</p> <p>【参考文献】 津守真『子どもの世界をどう見るか 行為とその意味』NHKブックス、2005年 津守真『保育の体験と思索 子どもの世界の探求』大日本図書、1999年</p> <p>【学習する上での留意点】 早期幼児教育論の発想との違いを十分に理解する。</p>
12~13.テーマ	現在の幼児教育の課題

- 【学習の目標】** 現代の子どもの発達の課題に対する集団保育の役割について考察する。
- 【学習の内容】** (1) 集団保育における保育者と子どもの関係
(2) 仲間との関係の形成の重要性
(3) 生活経験、生活習慣の形成の場としての幼稚園・保育所・認定こども園
- 【キーワード】** 集団生活への適応、規範意識の形成、生活習慣の自立、遊びにおける自己表現、保育者との信頼関係の形成
- 【学習の課題】** (1) 集団に入りにくい子どもに対する保育者の役割について考える。
(2) 子ども同士の関係を深めるための保育者の配慮について考える。
- 【参考文献】** 大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房、2006年
津守真『保育の体験と思索 子どもの世界の探求』大日本図書、1999年
- 【学習する上での留意点】** 子どもの育ちについて、個人と社会や集団の両面からとらえて、その相互の影響を考える。

14～15.テーマ	義務教育の基礎としての幼児教育
【学習の目標】	環境を通して遊びを中心に行う間接的な指導による幼児期の保育・教育と、小学校以降の直接的な指導による教育の違いを踏まえて、幼児期に育てておくべきこと及びその後の教育との接続の在り方について考察する。
【学習の内容】	(1) 現在の幼保小の連携・接続の問題の所在 (2) 子どもの育ち、環境、経験からの課題 (3) 教育目的、教育内容、教育方法からの課題
【キーワード】	幼保小の連携・接続、保育の専門性
【学習の課題】	(1) 幼児期の保育・教育と小学校以降の教育方法の違いを理解する。 (2) 現在行われている幼保小の連携の実践例について考察する。 (3) 生涯にわたる教育の「基礎」とは何かについて考える。 (4) 幼児期の教育者（保育者）の専門性について考える。
【参考文献】	ドナルド・ショーン『専門家の知恵』ゆるみ出版、2001年
学習する上での留意点】	人間形成や発達の基礎、適応や学習効果などに関して深く考えるとともに、子どもの立場で幼児教育を考える。